

## 第 18 回ホルモンと癌研究会にて婦人科疾患とホルモン動態に関する研究を発表しました (2017/6/23-24)

テーマ：災害医学研究教育、婦人科疾患とホルモン動態  
場 所：群馬大学医学部刀城会館（群馬県前橋市）

当研究所災害産婦人科学分野では、本学医学部の大学院生や学部生を対象に、「災害医学研究」に関する研究指導を行っています。災害産婦人科学分野の三木康宏 講師は、「婦人科疾患とホルモン動態」に関連して災害ストレスについての研究指導を行っています。今回、その成果の一部を第 18 回ホルモンと癌研究会で発表しました。

タイトル：子宮内膜癌における Dehydroepiandrosterone (DHEA) の作用

演 者：吉田伶奈（医学系研究科修士課程 2 年）、高橋彩理（医学部 4 年生）、  
三木康宏、笛 末崎、高木清司、鈴木貴、伊藤 潔

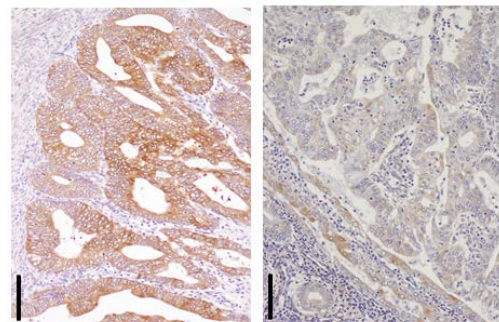
（下線は災害産婦人科学分野所属）

女性の体は様々なホルモンの影響を受け、恒常性を保っています。今回着目した Dehydroepiandrosterone (DHEA) は副腎から分泌され、その分泌量は思春期に急激に増加して 20 歳代でピークを迎えますが、その後急激に低下して 40 歳代では約半分、80 歳代ではほとんど分泌されなくなることが知られています。海外では「若返りサプリメント」として DHEA サプリメントが販売されています。ストレスとの関連については、ストレスによってコレステロールからのコルチゾール産生が増加し、同じくコレステロールから生合成される DHEA の産生が減少すると考えられています。本研究では悪性度の低い症例や癌細胞の増殖能の弱い症例において、子宮内膜癌組織中の DHEA 濃度が低いことを明らかにしました。DHEA 合成酵素であるステロイドサルファターゼ、同分解酵素である DHEA スルホトランスフェラーゼの発現をそれぞれ確認したところ、ステロイドサルファターゼの発現を認める症例では DHEA 濃度が低いことが明らかになりました。DHEA の体におよぼす影響については未だ情報が少なく、更なる研究が必要ですが、DHEA はストレスホルモンの負の影響を緩和する可能性を示すことができました。

災害による健康被害を解明するためには、そのメカニズムを探ることが重要であり、医学部と連携して災害医学研究を担う人材を育成していきたいと考えています。



発表の様子



子宮内膜癌における DHEA 合成（左）・  
分解（右）酵素の発現（茶色）